

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
東放学園映画専門学校		昭和59年4月2日		松島 司		〒 160-0023 (住所) 東京都新宿区西新宿5-25-8 (電話) 03-5333-5080																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538																														
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																											
文化・教養	芸術専門課程		小説創作科		平成 7(1995)年度		-		令和 3(2021)年度																											
学科の目的		自分で決めた進路を貫く情熱と物語創りを通して自己主張ができるクリエイターを育成することを目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		◎中途退学率:13.0%、◎取得可能資格:情報処理検定(表計算)、日本語ワープロ検定 ※棚架ユウ「転生したら剣でした」(現在11巻迄)、「出遅れティマーのその日暮らし」(現在7巻迄)共にマイクロマガジン社発行、「デッキひとつで異世界探訪」(現在4巻迄)ぶんか社発行、他 ※佐藤了「キマジメ魔王の清く正しい学園生活」集英社発行、他 ※立座翔太「勇者のお師匠様にかかれば、異世界の魔王たちも幸せにできます!」KADOKAWA発行、他 水沢汎『魔法犯罪取締庁召喚士取締部 〜その喚び出し、違法です〜』新紀元社																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,700 単位時間	675 単位時間	1,560 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																										
					単位	単位	単位	単位	単位	単位																										
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																														
72 人		42 人		6 人		14 %																														
就職等の状況		■卒業者数(C)		:		15 人																														
		■就職希望者数(D)		:		11 人																														
		■就職者数(E)		:		8 人																														
		■地元就職者数(F)		:		5 人																														
		■就職率(E/D)		:		73 %																														
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		63 %																														
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		53 %																														
		■進学者数		:		2 人																														
		■その他		:																																
		・作家は就社することはないため、就社しながらの執筆活動を望まない学生には、卒業後の執筆にあてる時間の確保も含め生計プランを中心に指導している。 ・就社せずにアルバイトと執筆活動を志望する学生を中心に、卒業生勉強会を学校とキャリアサポートセンターとで連携しつつ支援している。 (令和 5 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																		
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) (株)アウトソーシング、ブックオフコーポレーション(株)、(株)キット、(株)電算、SMC(株)、共栄セキュリティサービス(株)他(順不同)																																		
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																		
当該学科のホームページURL		https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/writing/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)																																		
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td colspan="2">2,475 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">0 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="2">150 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修授業時数</td><td colspan="2">150 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">0 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="2">150 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="2">単位時間</td></tr></table>									総授業時数		2,475 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数		150 単位時間		うち必修授業時数		150 単位時間		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		150 単位時間		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	
総授業時数		2,475 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数		150 単位時間																																		
うち必修授業時数		150 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		150 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間																																		
		(B: 単位数による算定)																																		
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="2">単位</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="2">単位</td></tr></table>									総授業時数		単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位		うち必修授業時数		単位		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	
総授業時数		単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位																																		
うち必修授業時数		単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)		<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>8 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>2 人</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>16 人</td></tr></table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	8 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計		16 人								
		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																																
		② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	8 人																																
		③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																
		④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3 人																																
		⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																
		計		16 人																																
<table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>9 人</td></tr></table>									上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	9 人																										
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	9 人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や流行等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長の他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用な意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
秋田 孝宏	日本マンガ学会 マンガ文化研究家 明治大学米沢嘉博記念図書館勤務	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	①
金巻 朋子	株式会社チクタク 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	③
松島 司	東放学園映画専門学校 学校長		—
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校 副校長		—
柳田 晃寿	東放学園映画専門学校 教務教育部長		—
喜多 晃平	東放学園映画専門学校小説創作科 学科主任		—
和田 理沙	東放学園映画専門学校小説創作科 学科担当		—
青柳 高広	東放学園映画専門学校 学務管理部長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月14日 14:00～16:00(オンライン)

第2回 令和7年2月15日 13:00～15:00(オンライン)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【本学科への意見・改善案等(抜粋)】

[意見] 小説だけではなく、文字を扱った職業につかせることが目的という学科の方向性に合わせて、「実践ライター講座」に雑誌記事だけではなく、近年活躍が目立つウェブ系のライターについても取り上げてみては？

[改善策] 卒業生の中には、ウェブライター系での仕事を担当しているものもいるため、学生の進路先の一つとして紹介するとともに、学生の反応も見つつ、その要素をふくらませるか検討してみたい。

[意見] 漫画原作の授業に関して

[改善策] 漫画原作への興味は、学生も十分にあるため、授業としても次年度取り組んでみようと思う。現在ライトノベル作家養成のカラーが強いため、この要素も取り入れてみたい。

[意見] 作品のできがどうか、自分で気に入っている以内に関わらず、締切に間に合うように投稿(原稿を仕上げる)という工程も含めて作品を作るということになるので、その重要性を学生に伝えてほしい。

[改善策] 学生の身分であっても職業を意識する上で、作品を仕上げる重要性は理解させたい。今後は進捗状況をこまめに確認しつつ、投稿させるまでを一つの工程とし指導していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①文章で感動を伝える多くの職業に通じる技術教育を重点項目としている本学科において、小説の執筆、プロデュース、出版等の業務で実績を持つ企業や学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
 - ②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
 - ③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
- 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、文筆を主とする様々な分野において必要とされる文章力、描写力や創造力を身につけるための基礎的な演習や実習授業を実施している。該当分野の企業と連携し、各分野で業務に従事している実務者に授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、実践力を高めることを目的とした作品制作系の総合的な演習や実習授業を実施している。各分野の一戦で活躍している企業と連携し、業務に従事している実務者に授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定常的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
創作総合演習Ⅰ	クリエイターに必要な基礎知識やアイディアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グループワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。	株式会社榎本事務所
創作総合演習Ⅱ	クリエイターに必要な基礎知識やアイディアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。Ⅱではより実践的な課題に取り組み、卒業後の進路についても考察する。	株式会社榎本事務所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 校正・校閲力養成講座

連携企業等: 宣伝会議

期間: 2023年11月

対象: 小説創作科専任教員

内容

【Web文書の校正・校閲】

- ・Web校正・校閲はなぜ大事なのか／・校正・校閲の流れ／・校正作業の実際
- ・Wordを使った校正・校閲／・校正・校閲のための道具／・マニュアルの作り方
- ・差別・不快表現小説の書き方・組み立て方⑧「書き出しは簡単。必要なことは、一つだけ。」
⇒物語の発想法、ストーリーの作り方、プロットの組み立て方、人物や風景を描写する方法など、小説の書き方の研修。

【Web文書にまつわる法律】

- ・Webページ、SNSにおける法律の重要性／・権利に関する法律(著作権、肖像権)
- ・掲載内容に関する法律(薬事法、消費者法)／・企業実例

【編集体制(実践編)】

- ・Webメディアでのリスクマネジメント実例／・編集者不在のWebでリスクマネジメントをする体制やフロー

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「分かりやすい説明の仕方」

連携企業等: 株式会社インソース

期間: 2024年2月

対象: 小説創作科専任教員

内容

- 1.「伝える」ポイントを考える(過去に見聞きした説明を振り返る、など)
- 2.目的・意図を明確にする(伝えたい内容を整理する、相手の立場になって考える)
- 3.話の構造を考える(何が話をわかりにくくしているのか、構造化のパターン、階層化するメリット、など)
- 4.話の展開を考える(わかりやすい説明をするためには、話の展開例)
- 5.実際の話し方をトレーニングする(間の取り方、話すスピード、姿勢態度表情の作り方、など)
- 6.総合演習①(指定された文章を階層的に整理し、最も伝えたい内容に絞って、分かりやすく説明する)
- 7.総合演習②(3つのテーマから1つを選択し、自分で文章を考え、分かりやすく説明する)
(また、グループ内でお互いの説明の仕方について、チェックシートを用いてフィードバックを行う)
- 8.まとめ(本日の研修を踏まえて、明日から意識することを考え、グループ内で共有する)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	頭ひとつ抜けた小説を書くためのシナリオ・センター式 創作術	連携企業等: カクヨム
期間:	2024年7月24日(水)19:00～20:30	対象: 小説創作科専任教員
内容	700名以上の脚本家や小説家が誕生しているシナリオ・センターの新井一樹が『シナリオ・センターが伝える 14歳からの創作ノート』(新井一樹著 KADOKAWA)をもとに、創作に関わる悩みを解決する講義。書きたいジャンルに関わらず、60分後あなたの作品がランクアップする道が見えちゃいます！	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ロジカルシンキング研修	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	2024年12月	対象: 東放学園全職員
内容	1.ロジカルシンキングとは何か 2.ロジカルシンキングの基本①～モレなくダブリなく～ 3.ロジカルシンキングの基本②～「だから」と「どうして」～ 4.ロジカルシンキングの基本③～演繹法と帰納法～ 5.ロジカルシンキングの応用①～仮説思考～ 6.ロジカルシンキングの応用②～フレームワーク思考～ 7.総合演習	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

(法人の基本方針)

①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。

②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。

③各校・各部門は、情報公開を念頭に揚げ、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6)教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。

【小説創作科について】※実績目標を立てて行く。

[意見]兼業作家を目指す上で、学生への指導は充実したものになっているか。卒業後の勉強会等は非常に良いが参加者はどの態度で、内容的の検討はしているか。

[改善策]学科内の授業科目でも、兼業作家をすることのメリット、デメリットを話している。今後は卒業生の兼業作家を在校生に紹介していくことも企画している。卒業後の勉強会は学園内のキャリアサポートセンター内にある卒業生支援室が主催しているため、連携を取りながら情報の共有と今後の方向性、企画などを詰めていきたい。

[意見]以前と比べて学生の質に変化がみられるとのことだが、具体的な策は検討、講じているか。更には学科の目指す方向性に変化はないか。

[改善策]学生の質の変化は感じており、近年カリキュラムの検討や講師のマネージメントにおいても検討を続けている。基本的な文章力の向上にまずは重点とした事や、読書という原点においてもカリキュラムに反映していく必要性があり、教育課程編成委員会においても議題として取り入れていく方向である。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5)様々な教育活動・教育環境	部＆クラブ活動紹介、機材・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
(9)学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp>

公表時期: 令和6年5月1日

授業科目等の概要

#REF1	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	授業方法				場所		教員		企業等との 連携
	必修	選択必修	自由 選択					講 義	演 習	実 験・ 技 実 習・ 実 案	校 外	校 内	専 任	兼 任		
1	○			ホームルームⅠ	ホームルームでは、創作に必要な個人的な環境作りから特 来ライバルにもなりうるメンバーとの意見交換・情報の共有なども含め、コミュニケーション力の向上と自身の創作意欲、モチベーション維持を目的としています。その環境の中で、創作活動における渉外を見つけ、改善させることを学ぶ。	1 通	30	○	○	△						
2				物語教養講座	映画史、日本文学史、歌舞伎、アメリカンコミック、ゲーム等、様々な知識を学び、物語を作るために必要な「好奇心」と「想像力」を養うことを目的とする。	1 通	60	○	○			○				○
3			○	ゼミナールⅠ	作家として活躍する講師に、業界の常識や作家としての立ち方等、毎回のテーマを決めて講義をして頂き、自身の創作や作家活動のヒントを得ることを目的とする。	1 通	30	○	○			○				
4	○			特別講座Ⅰ	作家や編集者などをゲストに招き、現場の生の声を聴く。業界で活躍する方の話を聞くことで、作家として必要なことや業界の現状を知り、今後の活動に必要な準備について考える確拠とするための講座。	1 通	30	○	○			○			○	
5				進路対策講座Ⅰ	社会人としての基礎を身につけるための講座で、社会の仕組みやビジネスマナーなどを学ぶ。同時に、小説家になるための準備について等、基礎的なことについても学んでいく。	1 通	30	○	○	△		○				
6			○	物語鑑賞Ⅰ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語る ことが求められる。	1 前	45	○	○			○				
7			○	物語鑑賞Ⅱ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語る ことが求められる。	1 後	45	○	○			○			○	
8			○	現代日本文学の作品を読むⅠ	小説を書くためには「読む力」が必要となる。小説を構成する要素に注目し、同時代の様々なジャンルの小説をテキストにして、小説を分析的に読む力を養う。	1 後	30	○	○			○				○
9			○	創作探求論	この講座では、様々な媒体でのリサーチの行いや注意 点、それぞれの特徴などを学ぶ。その上で、自身が今後の創作に活かせる事例について調べ、次年度以降の創作に役立てる。	1 後	30	○	○	△		○				
10			○	長編制作演習Ⅰ（実践）	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学ぶ。また、自身の長所を伸ばし弱点を克服する方法を学ぶことを目的とする。	1 前	60	○	○			○				
11			○	長編制作演習Ⅱ（実践）	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学ぶ。また、自身の長所を伸ばし弱点を克服する方法を学ぶことを目的とする。	1 後	60	○	○			○				○
12			○	長編創作演習Ⅰ	書きたいモノをどのようにして伝えるかを毎回の演習で学ぶ。自分に合った物語の割り方を見つけ、長編を執筆することを目的とする。	1 前	30	○	△	○		○				○
13			○	長編創作演習Ⅱ	書きたいモノをどのようにして伝えるかを毎回の演習で学ぶ。自分に合った物語の割り方を見つけ、長編を執筆することを目的とする。	1 後	30	○	△	○		○				○
14			○	実践文章作法	正しい文章を書くための理論を学ぶと共に、「自分のイメージを正確に表現できる文章」が書けるよう、具体的なシーンを描写する実践演習によって技術を身につける。	1 通	60	○	△	○		○			○	
15	○			基礎文章作法	小説を書く際に使用する日本語表現について学んでいく。学校で習った国語や普段使う言葉だけでなく「小説に使える日本語」を身に付けることを目的とする。	1 通	60	○	△	○		○				
16	○			創作総合演習Ⅰ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グループワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。	1 通	60	○	△	○		○			○	○
17			○	描写技術Ⅰ	エンターテインメント小説を書く時に重要な「万人がストレスなく読み進められる文章である」ということ。面白い題材を文章で読さなためにその描写について理解を深めます。	1 通	60	○	△	○		○				
18	○			小説の書き方	本を制作する工程や関わる職種等、書籍作りのいろはを学ぶ。また、物語作りの基礎や読者のニーズを把握し、作品に反映させられるようになることを目指す。	1 前	30	○	△	○		○				
19	○			校正・校閲演習	自分やクラスメイトの作品を客観的に校正、校閲できるようにするため、出版界の文章ルールを基礎から学ぶ。校正記号を覚えると共に、校正や校閲のルールを理解することを目指す。	1 前	30	○	△		○					
20			○	プレゼン演習	自分の想いや作品の魅力を伝える方法を学ぶ。自分の作品をより良くアピールするために必要なことや、スムーズに発表をする方法など、エンタメ業界で活躍するための方法を考え実践し検証する。	1 前	30	○	△	○		○				
21			○	シナリオ基礎	シナリオという独特の形式を学びながら基本的な書き方をマスターし、個々の感性が光るオリジナル作品を書き上げる。この講座ではその準備段階の力を身につける事を狙いとする。	1 前	30	○	△		○					○
22	○			物語創作講義Ⅰ	物語の三幕構成とプロットの作り方、世界設定とキャラクター設定の実践的な創作技法を学ぶ。	1 前	60	○	△	○		○				
23			○	物語創作講義Ⅱ	1で習得した技法にあわせ、自分で目標を定め、より詳細な物語構成を学び、実践として小説の完成を目指す。	1 後	30	○	△	○		○				
24			○	作品討論Ⅰ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を根拠でどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討議をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	1 前	30	○	○			○			○	
25			○	作品討論Ⅱ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を根拠でどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討議をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	1 後	30	○	○			○			○	
26			○	小説基礎講座Ⅰ	物語を形成する上での「王道」（構造やお約束事）を多くの作品からパターンとして身につけ、作品創作に落とし込む。プロット作成にて習得する。	1 前	30	○	△	○		○				
27			○	小説基礎講座Ⅱ	物語を形成する上での「王道」（構造やお約束事）を多くの作品からパターンとして身につけ、作品創作に落とし込む。プロット作成にて習得する。	1 後	30	○	△	○		○				

28			ゲームシナリオ・ボイスドラマ制作Ⅰ	物語構成の技術を活かしてゲーム・ボイスドラマ等のシナリオを書くための知識を身につける。また、ゲームやアニメの歴史を学びつつ、シナリオライターとして活動するための基本的な知識も学んでいく。	1 後	30	○	△		○	○		○						
29			サマーセミナーⅠ（短期集中）	取材を基に文章を書くことを目的とした宿泊研修。何故その場所であればならないか等企画を考え、事前に下調べを行う。現地では事前調査に沿って取材をし、取材結果を基に作品を執筆する。	1 短	60	○		○	△	○	○	○	○					
30			投稿制作実習Ⅰ	新人賞やコンペへの投稿を、在学中に経験することを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、投稿本数や結果に応じて評価を行う。	1 通	30	○				○	○	○	○					
31	○		ホームルームⅡ	ホームルームでは、創作に必要な個人的な環境作りから将来ライバルにもなりうるメンバーとの意見交換・情報の共有なども含め、コミュニケーション力の向上と自身の創作意欲、モチベーション維持を目的としています。その環境の中で、創作活動における渉外を見つけ、改善させることばあさ	2 通	30	○	○	△			○		○					
32			○ 幻想文学講義	幻想文学について、さまざまなテーマから解りやすく解説する。また、現代において、幻想文学の記号を自身の創作にどのように活かしていくかなど、その具体的な方法も示していく。	2 通	60	○	○				○				○			
33			○ 現代日本文学の作品を読むⅡ	小説を書くためには「読む力」が必要となる。小説を構成する要素に注目し、同時代の様々なジャンルの小説をテキストにして、小説を分析的に読む力を養う。	2 通	60	○	○					○				○		
34			○ ゼミナールⅡ	作家として活躍する講師に、業界の常識や作家としての立ち方等、毎回のテーマを決めて講義を頂き、自身の創作や作家活動のヒントを得ることを目的とする。	2 通	30	○	○					○					○	
35			○ 特別講座Ⅱ	作家や編集者などをゲストに招き、現場の生の声を聴く。業界で活躍する方の話を聞くことで、作家として必要なことや業界の現状を知り、今後の活動に必要な準備について考える場域とするための講座。	2 通	30	○	○						○		○			
36			○ 物語鑑賞Ⅲ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語る事が求められる。	2 前	45	○	○					○				○		
37			○ 物語鑑賞Ⅳ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語る事が求められる。	2 後	45	○	○						○			○		
38	○		進路対策講座Ⅱ	就職活動に必要な情報や知識を学ぶと共に、面接やSPI試験対策などの就職準備を整える。また、兼業で作家活動可能な企業や、ライター事務所等の企業紹介も授業内で行い、業界研究を進める。	2 前	30	○	○		△	○		○						
39			○ 進路対策講座Ⅲ	就職活動に必要な準備を実践的に行う。企業の人事担当者等を招いた説明会の実施や個人面談を行うことで、進路選択のサポートを行う。また、希望する進路を明確化するために、個人ごとにアドバイスを行う	2 前	15	○	○		△	○		○						
40			○ 長編制作演習Ⅲ（応用）	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学び、小説を執筆する。書き上げた作品は文学新人賞の1次選考突破を最低限の目標とし、積極的に新人賞に応募していく。	2 前	60	○	○				○						○	
41			○ 長編制作演習Ⅳ（応用）	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学び、小説を執筆する。書き上げた作品は文学新人賞の1次選考突破を最低限の目標とし、積極的に新人賞に応募していく。	2 後	60	○	○				○						○	
42			○ 長編創作演習Ⅲ	オリジナリティや商業性についても考えた上で、繰り返しプロットを作っていく。受講中の長編作品執筆を目標とする。	2 前	30	○	△	○				○					○	
43			○ 長編創作演習Ⅳ	オリジナリティや商業性についても考えた上で、繰り返しプロットを作っていく。受講中の長編作品執筆を目標とする。	2 後	30	○	△	○				○					○	
44			○ 実践ライター講座	出版社や編集プロダクション、ゲーム制作会社などへの就職やフリーランスでの業界デビューを目指す。技術の向上を図ると共に、記事やシナリオを執筆するための知識も学んでいく。	2 通	60	○	○	△				○					○	
45			○ 小説・漫画原作講座	漫画原作における必要なもの、考え方などを講師とのゼミ形式で、コミュニケーションを図りながら集中的に学ぶ。	2 通	60	○	△	○					○			○		
46			○ ライトノベル作家養成講座	毎回のテーマに沿った講義を受け、ディスカッションを行い、課題を作成して添削を受け修正という流れを繰り返し行う。デビューに必要な発想力や企画力を含めた文章作成能力を鍛える。	2 通	60	○	△	○					○					○
47	○		フィールドワーク実習	取材について学び、取材を基に文章を書くことを学ぶ。様々な場所に赴き、体験することで視野を広げると共に、実際に見たことや体験したことを、読者に伝わる文章にする訓練を行う。	2 通	75	○	△	○				○	○	○				
48	○		創作総合演習Ⅱ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グルーワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。Ⅱでは社会に出て何をしたいかも同時に考える。	2 通	60	○	△	○					○			○	○	
49			○ 描写技術Ⅱ	エンターテインメント小説を書く時に重要なのは「万人がストレスなく読み進められる文章である」ということ。面白い素材を文章で潰さないためにその描写について理解を深めます。	2 通	60	○	△	○					○				○	
50			ゲームシナリオ・ボイスドラマ制作Ⅱ	ゲームやボイスドラマのシナリオライターになるための知識や技術を身につけることを目標とする。実際に作品を制作し、講師のアドバイスで修正・ブラッシュアップを繰り返すことで、技術の向上を図る。	2 通	60	○	△	○				○					○	
51			○ 実践アナログゲームデザイン講座	まずは、ゲームを「楽しむ」から始まり、「伝える」「企画」「作る」につなげていきます。TOPのシナリオ制作を目指すための授業になります。	2 通	90	○						○					○	
52			○ 作品討論Ⅲ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を読んでどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討議をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	2 前	30	○	○					○						
53			○ 作品討論Ⅳ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を読んでどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討議をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	2 後	30	○	○					○				○		
54			○ 小説基礎講座Ⅲ	物語を形成する上でのエンタメ作品におけるキャラクター要素を多くの作品からパターンとして身につけ、作品創作に落とし込む。プロット作成にて習得する。	2 前	30	○	△	○				○					○	
55			○ 小説基礎講座Ⅳ	物語を形成する上でのエンタメ作品におけるキャラクター要素を多くの作品からパターンとして身につけ、作品創作に落とし込む。プロット作成にて習得する。	2 通	30	○	△	○				○					○	
56			○ サマーセミナーⅡ（短期集中）	取材を基に文章を書くことを目的とした宿泊研修。何故その場所であればならないか等企画を考え、事前に下調べを行う。現地では事前調査に沿って取材をし、取材結果を基に作品を執筆する。	2 短	60	○	△	○				○	○	○				
57			○ 投稿制作実習Ⅱ	新人賞やコンペへの投稿を在学中に経験すること、在学中にデビューすることを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、登校本数や結果に応じて評価を行う。	2 通	30	○					○			○				

58				○	投稿制作実習Ⅲ	在学中にデビューすることを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、登校本数や結果に応じて評価を行う。	2 週	30	○			○	○	○		
合計							58	科目	2475 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①期日迄の学費納入、②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 初回の授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日迄に履修科目の登録を行う。		1 学期の授業期間	15 週

- （留意事項）
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。